

1. 件名：核燃料施設等の安全重要度評価手法等に関する日本原子力研究開発機構との面談

2. 日時：令和2年11月18日（水）13：30～15：20

3. 場所：原子力規制庁 2階打ち合わせテーブル（TV会議システムを利用）

4. 出席者

原子力規制庁 原子力規制部 核燃料施設等監視部門

熊谷統括監視指導官、伊藤企画調査官、関主任監視指導官、福原監視指導官

日本原子力研究開発機構

安全・核セキュリティ統括部安全・核セキュリティ推進室品質保証課課長 他5名

5. 要旨

(1) 原子力規制庁から、配布資料（1）に基づき、本年11月6日に実施した第2回検査制度に関する意見交換会合を踏まえ、核燃料施設等の安全重要度評価手法の検討状況及び今後の検討課題を説明し、日本原子力研究開発機構（以下、JAEAという。）と意見交換を行った。

(2) 原子力規制庁から、特に核燃料施設等の重要度評価においては、同一の評価基準を用いることは適切でないと考えており、同じリスクを有する施設をグループ化するとともに、このグループ毎に規制対応の大きさを決めていきたいと考えており、様々な施設を所有しているJAEAの意見を参考にしながら検討を進めたい旨を伝えた。

(3) JAEAから、配布資料（2）に基づき、JAEAが考えるグレーデッドアプローチのイメージ等について説明があった。

(4) 原子力規制庁から、今後、具体的な事例をもとに評価の内容を議論していきたいと考えているためご協力をお願いしたいこと、次回の検査制度に関する意見交換会合の場でもご説明いただきたいことを伝え、JAEAから了解の旨の回答があった。

6. 配布資料

(1) 核燃料施設等における安全重要度評価の検討の方向性について（第2回検査制度に関する意見交換会合配布資料、原子力規制庁作成）

(2) グレーデッドアプローチに基づく重要度分類（暫定版）について（案）（第26回検査制度の見直しに関するワーキンググループ配布資料、JAEA作成）